

第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の総括

～4つの柱に基づく取組について～

第8期計画では、「みんなで、つながり、つくろう！ いつまでも健康でいきいきと暮らせるまち たかはま」を理念として掲げ、《たかはま版地域包括ケアシステムの充実・強化》《フレイル対策と高齢者の活躍するまちづくりの推進～地域循環型福祉経済の仕組みづくり》《認知症施策の推進》《要介護者と介護に取り組む家族への包括的な支援の充実》を計画の4本の柱（基本方針）として位置付け、さまざまな取組を推進してきました。

【評価表記】

A：順調

B：概ね順調

C：努力が必要

1 第8期計画の評価

基本方針 1 たかはま版地域包括ケアシステムの充実・強化

		評価：B
施策の展開	<ul style="list-style-type: none"> ○地域共生社会の実現に向けた取組の推進 ○ネットワークの充実・強化 ○地域包括ケアシステムを支える人材の確保と育成 ○住まいに関する支援の充実 ○安全・安心のまちづくりの推進 	
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・市の職員や生活支援コーディネーターが、第2層（小学校区）の協議体等に参加し、地域の課題や資源の把握を行った。 ・従前からの課題解決を目指すアプローチだけでなく、繋がり続けることを目指すアプローチを実施するため、専門多職種との顔の見える関係の構築ができています。 ・民生児童委員・まちづくり協議会などの見守り活動により、地域情報を早期に把握し、適宜必要な支援につなげることができた。 ・対面に加え、ICTツールやオンラインも活用し、それぞれの良さを活かしたハイブリッド型での検討や地域の見守り情報の共有を図った。 ・「介護事業所相互交流研修事業」を実施し、BCP（事業継続計画）策定研修の開催や介護スキルの向上と離職防止を図った。 ・市内介護保険事業所が参加する「高齢者サービス調整会議」を活用し、介護ロボットの実演・紹介を行った。 ・市内事業所と福祉人材の確保・育成に係る意見交換会を実施し、いきいき広場に「福祉事業所からのお知らせ掲示板」を設置、児童センターで福祉 	

	<p>のお仕事と福祉機器を知る講座を企画実施、離職防止等をねらいとした若手職員交流研修会を企画実施した。</p> <ul style="list-style-type: none">・シルバーハウジングに居住する高齢者に対し、引き続き生活援助員（LSA）を派遣し、生活指導・相談、安否の確認、緊急時の対応等のサービスを提供した。・要配慮者が安心して利用できる福祉避難所を令和5年度までに18か所指定して確保した。・関係機関の協力のもと、避難行動要支援者名簿を更新した。
--	--

基本方針2 フレイル対策と高齢者の活躍するまちづくりの推進

		評価：A
施策の展開	<ul style="list-style-type: none"> ○フレイル予防の充実 ○生きがい活動・就労の推進 ○介護予防・日常生活支援総合事業の充実 ○自立支援・重度化予防の取組と目標 ○在宅生活支援の充実 	
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「健康自生地」は、令和6年3月までに計126か所設置（令和3年度5か所増、令和4年度2か所増、令和5年度4か所増）された。また、情報誌「でいでーる」の発行や「健康自生地ウォーキングツアー」などを通じて、健康自生地に出かけるきっかけづくりを行い、健康自生地を活用したフレイル予防の取組を進めた。 ・歩行評価が確認できる「ホコタッチ」は、希望する65歳以上の市民に対して、令和3～5年度において新たに286個配布（令和3年度108個、令和4年度87個、令和5年度91個）した。また、他の手本となる利用者を「ホコタッチの達人」に認定し表彰することで、市民への啓発や健康づくりの励みにつなげた。 ・身体機能や社会活動の低下に伴い外出機会が少なくなった高齢者を対象に、外出支援、社会・知的・身体活動を促すコグニタウン事業を実施した。 ・令和3～5年度には、「コグニ倶楽部」事業として、スマートフォンを用いた活動促進と自己管理プログラムの認知症予防効果を検証する研究事業を、国立長寿医療研究センターと共同で実施した。 ・健康教室の参加やボランティア活動など、健康づくりに関する取り組みをマイレージ（ポイント）として集め、市内協力店で使用できる優待カードを交付する「たかはま健康チャレンジ事業」を実施した。 ・介護予防拠点施設（宅老所、ものづくり工房あかおにどん等）の管理運営に、高齢者自身が主体的に関わるよう働きかけた。 ・高齢者が知識や経験を活かして地域を豊かにする社会活動などを行う「いきいきクラブ（老人クラブ）」の活動を支援した。令和5年度は、フレイル予防をテーマに「生きがい教室」を実施した。 ・令和3年度においては、新型コロナウイルス感染症流行による外出自粛が長期化し、筋力低下やもの忘れの進行などフレイル（虚弱）が進行しないよう広報等で予防を周知した。 ・生活支援コーディネーターが、まちづくり協議会などと連携しながら、地 	

	<p>域の課題解決に向けた取組みを進めるとともに、「フレイル予防に着目した地域ケア個別会議」を通して自立支援・重度化防止のための支援アプローチの強化を図った。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 1人暮らし高齢者等に対し、配食サービスや緊急通報装置の貸与、家事援助サービスを提供した。・ 介護の相談において、介護者の就労状況や家庭環境など、個々の状況に寄り添ってサービスの提案を行った。
--	--

基本方針 3 認知症施策の推進

		評価：B
施策の展開	<ul style="list-style-type: none"> ○認知症理解の促進 ○認知症予防の推進 ○認知症支援体制の構築 ○高齢者の権利擁護の推進 	
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・市民に認知症に対する理解を深めるため、認知症サポーター養成講座を開催した。 ・本市の認知症サポーターは、令和6年3月末現在、11,544人、総人口に占める割合は23.485%、県内では6位となった。 ・認知症ケアパス（認知症の容態に応じ、相談先やいつでもどこでどのような医療・介護サービスを受ければいいのか、流れを示したもの）を作成し、医療機関やいきいき広場などで配布した。 ・認知症の人や家族、地域住民など誰もが参加でき集う場として、“昭和で元気になる会”が認知症カフェ（昭和で元気になるカフェ）を開催した。 ・国立長寿医療研究センターと共同で認知症発症抑制に資する活動プログラム開発を目指した研究事業を実施している。令和3年度からはセルフモニタリングを用いた認知症予防プログラム研究事業（コグニ倶楽部）を実施している。 ・医師会の協力のもと、認知症サポート医の養成を進めるとともに、関係機関をつなぐコーディネーターである認知症地域支援推進員をすべての小学校区に配置している。 ・市民に「高浜市認知症高齢者等見守りSOSネットワーク」の検索協力者への登録を呼びかけた。また、SOSネットワークに登録した認知症の方を被保険者とする個人賠償責任保険に市が保険契約者として加入している。 ・認知症地域支援推進員を中心に、医療機関・介護サービス事業所や地域の支援機関のネットワークを強化し、個別の支援を行った。 ・要保護者対策地域協議会、権利擁護支援センターを設置し、児童および高齢者虐待の早期発見、適切な保護に努めた。 ・権利擁護支援センターと協力して、成年後見制度や消費者被害相談等、権利擁護について総合的に取り組んだ。 ・認知症サポーター養成講座に加え、ステップアップ講座を受講した人を中心とした支援チーム「チームオレンジ」を立ち上げた。 	

基本方針 4 要介護者と介護に取り組む家族への包括的な支援の充実

		評価：A																																																												
施策の展開	<ul style="list-style-type: none"> ○被保険者・認定者の現状と見込み ○居宅サービス等の現状と見込み ○地域密着型サービスの現状と見込み ○施設サービスの現状と見込み ○市町村特別給付（上乗せ・横だしサービス）の方向性 ○介護保険事業費・介護保険料の見込み ○介護給付の適正化の推進 ○リハビリテーション提供体制の充実 																																																													
進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・認定率は、令和3年以降、上昇傾向を示しており、愛知県との比較ではほぼ同水準となっているものの、全国との比較では2ポイント以上低くなっている。 ・全国、県に比べ在宅サービス（主に通所系サービス）がよく利用されている（第1号被保険者1人当たり給付額が高い）。また、利用者一人ひとりもたくさん利用している（受給者1人当たりの給付額が高い）。 ・上乗せ給付については、ケアプランチェック等を実施することにより適正化を図り、必要に応じ居宅介護支援事業所に指導した。 ・ケアプランチェックは、国保連からの疑義や確認の必要性ありと判断されたものを主な対象として実施した。 ・自立支援や重度化防止の観点で、より多角的な視点からとらえることができるよう「フレイル予防に着目した地域ケア個別会議」に薬剤師やリハビリテーション専門職、管理栄養士を会議のメンバーに加えた。 ・介護予防・日常生活支援総合事業における「気軽に体操教室」に理学療法士が関与することで、自立した生活が継続できるための支援を行った。 ・リハビリテーションサービス提供体制については、専門職の確保が進んだ。 <p>〔第8期計画におけるリハビリテーションサービス提供体制の指標〕</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">指標</th> <th>令2実績</th> <th>令3実績</th> <th>令4実績</th> <th>令5実績</th> <th>目標</th> <th>結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">リハビリテーション専門職</td> <td>理学療法士</td> <td>4人</td> <td>7人</td> <td>12人</td> <td>12人</td> <td>増加</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>作業療法士</td> <td>2人</td> <td>3人</td> <td>6人</td> <td>6人</td> <td>増加</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>言語聴覚士</td> <td>2人</td> <td>2人</td> <td>3人</td> <td>3人</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">短期集中リハビリテーション算定者</td> <td>訪問リハビリ</td> <td>1人</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>増加</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>通所リハビリ</td> <td>8人</td> <td>17人</td> <td>12人</td> <td>14人</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">リハビリマネジメント加算Ⅱ以上算定者*</td> <td>訪問リハビリ</td> <td>3人</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>0人</td> <td>維持</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>通所リハビリ</td> <td>10人</td> <td>12人</td> <td>4人</td> <td>1人</td> <td>増加</td> <td>減少</td> </tr> </tbody> </table> <p>※加算Aイ・ロ、Bイ・ロに同じ</p>	指標		令2実績	令3実績	令4実績	令5実績	目標	結果	リハビリテーション専門職	理学療法士	4人	7人	12人	12人	増加	増加	作業療法士	2人	3人	6人	6人	増加	増加	言語聴覚士	2人	2人	3人	3人	維持	増加	短期集中リハビリテーション算定者	訪問リハビリ	1人	0人	0人	0人	増加	なし	通所リハビリ	8人	17人	12人	14人	維持	増加	リハビリマネジメント加算Ⅱ以上算定者*	訪問リハビリ	3人	0人	0人	0人	維持	なし	通所リハビリ	10人	12人	4人	1人	増加	減少	
指標		令2実績	令3実績	令4実績	令5実績	目標	結果																																																							
リハビリテーション専門職	理学療法士	4人	7人	12人	12人	増加	増加																																																							
	作業療法士	2人	3人	6人	6人	増加	増加																																																							
	言語聴覚士	2人	2人	3人	3人	維持	増加																																																							
短期集中リハビリテーション算定者	訪問リハビリ	1人	0人	0人	0人	増加	なし																																																							
	通所リハビリ	8人	17人	12人	14人	維持	増加																																																							
リハビリマネジメント加算Ⅱ以上算定者*	訪問リハビリ	3人	0人	0人	0人	維持	なし																																																							
	通所リハビリ	10人	12人	4人	1人	増加	減少																																																							

